

# いざなみ

No.169  
2013年3月

## 子ども大会～お話の楽しさを届けたい～

県立長崎図書館では、お話の楽しさを味わっていたいと、毎年、幼児を対象にした「子ども大会」を開催しております。

今年度も平成24年12月1日（土）、本館講堂において実施いたしました。毎年、このイベントを楽しみにしてくださっている方も多く、当日は、寒い中、約130名の方に集まつていただきました。

今年度の内容は、大型絵本の読み聞かせ、紙芝居、手品、パネルシアターを使った体操、人形劇などでした。

来てくれた子どもたちは、動物のまねをして体操をしたり、手品の呪文を唱えたりと、一緒になって出し物に参加してくれました。中でも、盛り上がったのは、人形劇「三びきのやぎのがらがらどん」です。子どもたちは、大きな化け物「トロル」に驚いたり、怖がったりしながらも、「大やぎ」が負けないように「がんばれ」と大きな声援を送ってくれました。そのおかげで、「大やぎ」は見事「トロル」をやっつけることができました。

また、会場の外では、仕掛け絵本を展示しました。こちらも、親子で楽しんでいただけたようでした。



### もくじ

- |                                     |     |
|-------------------------------------|-----|
| ◎ こども大会～お話の楽しさを届けたい～                | P 1 |
| ◎ 県公共図書館等協議会表彰団体紹介                  | P 2 |
| ◎ 資料紹介<どんなお皿で食べていますか?>              | P 3 |
| ◎ 県内図書館散歩・第27回図書館講座・長崎ゆかりの文学展第4回企画展 | P 4 |
| ◎ 特別寄稿(県立長崎図書館創立100周年に寄せて)          | P 5 |
| ◎ お知らせ、行事案内等                        | P 6 |

# 県公共図書館等協議会表彰団体紹介

## ●布絵本サークル「ふわり」(対馬市立つしま図書館)



私達は、つしま図書館で布絵本を作成しているボランティア団体「ふわり」と申します。

このたびは、長崎県公共図書館等協議会において表彰をいただき大変感謝しております。

この「ふわり」の発足のきっかけは、図書館に紙以外の暖かみのある本をおいて子どもたちに触ってもらいたいという気持ちからでした。

布絵本はもちろん、エプロンシアター、季節の飾り、タペストリーなどいろいろな物を手掛けしており、図書館内はもちろん、小学校や子育てセンターなどへ出掛けたり、作品を貸出したりする中で地域とのかかわりの大切さを感じています。このサークルの特徴は、縫い物が苦手でも皆で教え合

いながらやれるところで、皆和気あいあいと楽しくやっています。一人ひとりの力はわずかでも、みんなで作れば感動できるような作品も出来るし、子どもやお母さん達が喜んでくださるのを見ると自分達も作った実感が沸いてきます。

今までで一番心に残った作品は、「いただきますあそび」絵本です。絵本作家の木村裕一先生が図書ボランティア養成講座の講演会に来られるという事で、その歓迎作品をぜひ作りたいと思い、許可を取り作り始めました。仕掛けの部分が難しく、試行錯誤しながら作っていました。どうしても出来ない箇所は、メンバーの方に聞きながら何度もやり直しました。おかげで木村先生にも大絶賛で制作の苦労も報われました。講演会に来場された方も完成度の高さに驚かれており、その様子をみて私達も少し自慢気でした。作る楽しさ、見せる喜びを感じた瞬間でしたね。

今後は、オリジナル作品も手掛けたいと思っていますし、もっと対馬中の方に知っていただけるような活動をしていきたいと思っています。今回の受賞を励みにこれからも楽しく活動をして、このサークルを長続きさせたいと思っています。また、他地区の布絵本サークルの方々との交流もぜひ実行できたら良いな~と思っています。

良い表彰をいただき本当に励みになりました。ありがとうございました。

## ●「親子読書の集in佐々」を終えて（佐々町立図書館図書ボランティアの会）



平成24年6月、県教育庁生涯学習課から「親子読書の集in佐々」の話があり、講師は長谷川義史先生と聞いて、皆快くお手伝いすることにしました。軽い気持ちで引き受けたのですが、打ち合わせの度に、年齢別に分けた四つの部屋のグループの皆さんとの「あれもこれも」「こうしよう、ああしよう」等の思いやアイデアが湧いてきました。各部屋の飾り付けや立看板、参加者へのプレゼント作り等、グループ毎に楽しく準備し、又、町内の親子へも機会ある毎に参加の呼びかけをしていました。550名を超えた申し込みに嬉しい悲鳴を上げ、あわててプレゼントの数を増やしながら、部屋に入れるだろうかと新たなる心配も…。

当日、12月15日は生憎の雨。恨めしい空模様をはねのけて、遠くから近くからぞくぞく入場。定刻にはほぼ満席に。立ち席の部屋も出る有様。第二部の講演は長谷川義史先生独特の語りと描画で時間も忘れて聴き入りました。全員参加で準備した初めての大きな集いでしたが、参加者と共に楽しく盛り上がった一日となりました。この取組みの中で会員同士の結束もさらに深まったようです。

図書館開館と同時に「図書ボランティアの会」がスタートして14年。住民サービス第一の図書館職員の熱意と、子ども達の食い入るような眼差しに支えられ、手探りで活動して来た私たちの会ですが、図書館での読み語り（火・木・土）を主に、町内両小学校（毎週一回）、保育所（月一回）幼稚園、ブックスタート等の活動や、自主学習会（ぼちぼちの会）を毎月しています。こどもの本に関する講座へは誘い合って出向きます。

こどもたちのため、こどもと本との橋渡しを始めたボランティア活動ですが、自分の人生をどれ程生き生きとさせてくれている事かと感じるこの頃です。

平成24年度に図書館等協議会表彰を受け、身に余る光栄です。今後もぼちぼち、こどもとよい本との橋渡し役として、34名の会員とご一緒に楽しみながら、さらに輪を拡げていきたいと思います。

# 資料紹介 ~どんなお皿で食べていますか?~

春めいた陽気に心踊る今日この頃、この春から新しい土地で生活を始められる方も多いと思います。新生活に向けて新しい食器を購入する人もいらっしゃるでしょうが、この季節に開催されるイベントの一つに陶器市があります。露店や店先を練り歩き、思いがけずお気に入りの一枚と出会ったり、普段は買わないような値段のものが安く手に入れられたり、充実した時間を過ごすことができます。

焼き物や陶磁器というとお隣佐賀の有田、伊万里が有名ですが、波佐見焼、三川内焼、現川焼など長崎県内にもたくさんのお窯元があり多くの製品が作られています。芸術的な美しさと機能性を兼ね備えたこれらの製品は近年、全国的にも人気があるようです。長崎の焼き物が全国の方々の食卓に並んでいるのを想像すると自分のことのようにうれしくなってしまいます。

みなさんはどんなお皿で食べていますか? 今回は長崎の焼き物に関する資料をご紹介します。



『森正洋の言葉。デザインの言葉。』 森正洋を語り・伝える会/著 ナガオカケンメイ/企画 松尾慶一／〔ほか〕談 美術出版社

佐賀県出身の森正洋は1956年に波佐見の白山陶器に入社、「G型しようゆさし」など現在でも人気の高い製品をデザインし世に送り出しています。森正洋の言葉を通じて、その人物像に迫ります。



『樂』 2008秋号 イーズワークス

長崎の陶磁器についての特集、波佐見、三川内の窯元を紹介しています。陶磁器の歴史、各窯元の伝統と技など陶磁器の奥深さを理解できる資料となっています。



『長崎のやきもの 土と炎の里』 下川達彌/著

長崎県の焼き物についてその歴史や特徴をまとめた書です。龜山焼、五島焼、対州焼など現在あまり知ることのできない焼き物についても詳しく説明しており、長崎の焼き物文化の多様性を知ることができます。



『こどものとも年少版 2011年9月号

『おさらのこども』 西平あかね さく 福音館書店

長崎県在住の絵本作家西平あかねさんの作品です。三川内焼の唐子たちが楽しく冒険します。

お子様と一緒に読んでみてはいかがでしょうか?

# シリーズ 県内図書館散歩⑨

－壱岐市立石田図書館・  
壱岐市立郷ノ浦図書館－



壱岐市には石田図書館と郷ノ浦図書館の2つの市立図書館があります。

石田（いしだ）図書館は現在の場所に平成16年7月19日に開館、1階部分は商業施設で2階部分が図書館となった複合施設となっています。館内からは港が一望できる景色がよい明るい静かな環境となっています。

毎月開催しているボランティアの方々による絵本の読み聞かせの会では、親子や祖父母の参加も多く、ほのぼのとした温かい雰囲気で開催することができます。このような雰囲気をこれからも大切にし、より多くの方々に利用していただけるよう努めてまいります。

郷ノ浦（ごうのうら）図書館は、昭和24年に武生水（むしょうず）図書館として開館し、平成8年より現在地に移転、今に至っています。

特色としては、主に郷土資料の収集に力を入れており、利用者にも好評を戴いています。また、新たに書籍を参考とした工作教室やクッキング教室などを開催し、子ども達への読書推進を行っています。絵本や児童書の閲覧コーナーも広く整え、子ども達が気軽に利用できるような環境づくりを進めていきます。これからも皆様の声を聴きながら、地域に密着した図書館を目指していきます。



長崎県立長崎図書館創立100周年記念企画

## 第27回 県立長崎図書館講座

### 講演「小さい仲間たち」を開催しました。

昨年の11月17日（土）に、生物生態写真家の栗林慧氏を講師にお招きし、講演「小さい仲間たち」と題する図書館講座を開催しました。

講演では、栗林氏が40年以上にわたって付き合ってきた昆虫たちと、その昆虫を撮影するために工夫を重ねてきた数々のエピソードについて、写真を交えながらお話を伺いました。自然界の生物たちの驚異の生態をとらえた独創的な写真を撮り続けてきた栗林氏の「虫の目になって、虫と同じ世界を生きていると感じられる写真を撮りたい」という強い思いが伝わってくるお話でした。

受講者からは、「先生が自ら研究したオリジナルカメラで虫たちを写し撮られたことは、とても興味深いお話でした。」「写真をたくさん見せていただき子どもと一緒に楽しめました。」等の感想が寄せられ大変好評でした。



## 長崎ゆかりの文学展のご紹介

### 第4回企画展「収蔵品展～県立長崎図書館100年の芳名録から～」開催中



県立長崎図書館は、平成24年6月1日に創立100周年を迎えました。この100年の間に当館には国内外の政財界人、作家、研究者等も多数訪れており、本館所蔵の芳名録には、100年の歴史が刻まれています。

今回の企画展では、その芳名録から福田清人、白石一郎などをはじめとする本県出身作家や、芥川龍之介や吉村昭など本県を訪れた文学者たちを紹介し、その直筆資料や著書等を展示して長崎との関わりや長崎の文学の豊かな香りをお伝えしています。

会期は3月30日（土）までです。この機会にぜひご来館ください。

## 期待される図書館像

長崎県立長崎図書館協議会委員長・諫早市立諫早図書館長 渡辺 克行 氏

県立長崎図書館の開館100周年を心よりお慶び申しあげます。

一口に百年と言っても、明治45年に開館した当時の蔵書は僅か2,400冊であったのが現在は100万冊となっております。その内容も多岐にわたり、特に近世の長崎に関する貴重な資料をはじめ数多くの蔵書については、県民周知のとおりこれまでの職員・関係者の並々ならぬ尽力の成果が現在の県立図書館としての確固たる地位を築いてきたものであると敬意を表したいと思います。また、各市町の公共図書館とはネットワークで結ばれ県立図書館として指導的な役割を担ってきており、情報の地域格差をなくすために県内各図書館の核としてその機能を十分に発揮しておられます。

図書館は人々の知識が時代を超えて受け継がれており、自分が知らない世界のことを教えてくれる場所であり、未知の世界と出会える場所でもあります。それ故に県民はもとより多くの学者、著名人が未知の世界を研究し、その資料は膨大となり挙げたらきりがありません。

図書館は人々が最も支持している公共施設であり、まして敷居が低い施設であるのが特徴です。生涯学習がいわれて久しく、子どもからお年寄りまで気軽に利用できるため、我々は図書館の存在そのものがあたりまえのようになっています。身近な存在になっているが故に利用者の意識も100年の間に大きく変化しており、これから図書館のあり方を考える上で大きな節目にきているのではと思います。

現在、我々は意識していないなくてもテレビ・ラジオ・新聞・インターネットなど日々いろいろなかたちで情報を入手しています。このように多くの情報から真実を見抜く力、間違いを見抜く力が必要となります。図書館はテーマに沿ってさまざまな角度から検証された資料が揃っており、その能力を培うことができる施設の一つです。

図書館へ行けば欲しい情報が得られるということが当然のようになってきています。そのため、来館者が要求する情報は多岐にわたるだろうと想像されます。こうしたことを踏まえ、県立図書館として今後どういう方向性をもって運営すべきなのか、また、どういう視点が今後必要なのかを考えいくことが重要な時期にきているのではないかと思います。

図書館が文化・教養だけを看板に掲げるのではなく、県民のさまざまな課題を解決する手助けとなる情報をこれまで以上に発信していくかなければならないでしょう。そのためにも多岐にわたる情報を常に発信する県立図書館として、より一層県民の信頼に応えていただき、県内公共図書館の核として益々発展しますよう祈念するとともに、創立100周年を心からお祝い申しあげます。

# 長崎発読書郵便集第5号 刊行のお知らせ

県立長崎図書館及び長崎県公共図書館等協議会では、県内市町立図書館等と協力し、子どもの読書活動推進のため、「子ども読書の日（4月23日）」や「こども読書週間（4月23日～5月12日）」における各種啓発活動の一助として、本冊子『長崎発読書郵便集～この感動をあなたへ伝えたい』を発刊し、県内の子ども読書活動推進イベント等で活用していただいているところです。

今年度も、県内各地域から3,211点に及ぶ子どもたちのすばらしい作品を募り、「長崎発読書郵便集第5号」を刊行することができましたので、ぜひご覧ください。



長崎発読書郵便集第5号

## 読書郵便とは

友だちや大切な人に読んで  
もらいたい本を、郵便はがき形式で  
紹介したものです。

過去に作成しました第1号～第4号も好評いただいており、本館ホームページからもご覧ることができますので、併せてご活用ください。

### ホームページアドレス

<http://www.lib.pref.nagasaki.jp/news/dokusyoyubin.html>



第1号



第2号



第3号



第4号

## 県立長崎図書館からのお願い

卒業・入学・異動の季節です。

**借りたままになっている本はありませんか？**

**万一、返却されていない本がありましたら、ご返却をお願いします。**

※玄関横の返却ポスト（24時間対応）へ返却も可能です。図書館の本は県民共有の財産です。  
また、住所等連絡先の変更があった方は、県立長崎図書館までお知らせください。

## 催し物のご案内

### 平成25年度「長崎ゆかりの文学展」 (第1回企画展)

#### 「長崎の劇作家展」

(平成25年4月23日～平成25年6月23日)

場所：県立長崎図書館4階郷土資料展示室

時間：9:30～17:00（ただし休館日を除く）

### 第28回（平成25年度第1回） 県立長崎図書館講座

#### 「市川森一の『夢の軌跡』と長崎」

講師：鈴木 嘉一 氏（放送評論家・ジャーナリスト）

日時：平成25年5月25日（土）13:30～15:30

場所：県立長崎図書館2階講堂